

こんにちは! 日本共産党の

大名みえ子です

ご相談はお気軽にお寄せください

2008年 8月 8日 100

〒319-1112

東海村村松2401-2

oona_toukai@yahoo.co.jp

電話・ファックス 029-284-0761

あまりにひどい!

米原潜の放射能漏れ2年超

米側の「日本への全ての寄港の間に漏れた放射能の量を全て合わせたとしても、一般家庭用煙検知器に含まれる放射性物質の量よりも少ない」との、今回の事態を正当化する言い分に怒りが強まっています。

米海軍原子力潜水艦ヒューストンから、放射能を帯びた冷却水が漏れていた期間は2006年6月から今年7月までの2年以上に及んでいたということです。そしてこの期間中にヒューストンは日本に11回寄港していたことも明らかになりました。

ヒューストンの放射能漏れは、ハワイでの定期点検中の今年7月24日に確認され、今月1日には米政府から外務省に通報があったそうです。ところが外務省はこの通報を隠し、首相官邸や外相への報告、関係自治体への通報が一日遅れたということも問題になってきました。

アメリカは日本に対しきちんと謝罪し、放射能漏れに関する真実を報告すべきです。またこの問題に対し、外務省はじめ日本政府の対応は本来どうあるべきか、国民にきちんと示すべきです。

県内の公立小中学校の教員約千人を対象に県教委が初めて実施した業務実態調査

学級会計、報告書作成... 「事務で多忙」半数超**県教委が軽減検討**

茨城新聞8月7日付けより

県教委は5 - 6月、無作為に抽出した管理職を除く小中学校教員1,141人を対象にアンケート調査を実施した。回収率は93%。

全体の95%が「忙しい」と回答。多忙な原因と感じる業務について、小学校教員の54%が「事務・報告書作成や会計処理」をあげ、「授業準備や成績処理」(41%)、「研究指定」「各種団体からの作品募集」(ともに40%)が続いた。中学校教員では、「部活動」(42%)、「生徒指導や教育相談」(33%)の割合が多かったが、やはり52%が報告書作成や会計をあげた。

ほぼ全員が授業や授業準備、成績処理など子どもと直接かかわる業務を「多忙でも行う必要がある」と回答。一方で、削減や整理統合などができる業務について、教員の53%が「各種団体からの作品募集」、46%が「事務・報告書作成、会計処理」、41%が「研究指定」を挙げた。中学校教員の44%は部活動の見直しを求めた。

県教委によると、各種団体からのポスターや作文、標語などの作品依頼は1校平均で年間約120件。県市町村教委などが学級担任らに依頼する調査照会件数は1校当たり年間約90件、報告は約118件に達する。研究指定校も昨年度、国と県教委関係だけで計125校に上り、一校で複数の指定を受けたケースもあった。

県教委は「日中は授業や多忙な雑務に追われ、教材研究や授業準備など1人でできる業務を自宅に持ち帰っている実態がうかがえる」(義務教育課)と分析。現場の声を基に負担軽減の改善案をまとめ、九月に県議会財政再建等調査特別委員会へ提示する方針だ。